

## 令和元年度 第1回 函館市南茅部地域審議会会議録

開催日時	令和元年（2019年）7月29日 月曜日 午後4時00分～午後5時50分																																														
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂																																														
内 容	<p>○諸般の報告</p> <p>○議題</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 平成30年度（2018年度）事業の実績報告について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 令和元年度（2019年度）事業計画について</p> <p>○地域振興全般に関する意見交換</p> <p>○その他</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 前回の地域審議会での質問への回答について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 史跡垣ノ島遺跡の整備について</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 地域連携特例校制度と南茅部高校の現状について</p> <p style="margin-left: 20px;">(4) その他</p>																																														
出席委員	<p>◎熊谷儀一委員      ○高谷大喜委員      藤川健一委員      張磨芳子委員</p> <p>嵐田由喜子委員      中村正俊委員      佐藤俊司委員      佐々木孝比古委員</p> <p>佐藤幸江委員      工藤千春委員</p> <p style="text-align: center;">（◎：会長    ○：副会長）</p> <p style="text-align: right;">（計10名）</p>																																														
欠席委員	<p>加我義幸委員      坂井満委員      坂本裕太委員      野口慶太委員</p> <p>熊谷真理子委員</p> <p style="text-align: right;">（計5名）</p>																																														
事務局の出席者の職氏名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">南茅部支所長</td> <td style="width: 25%;">松浦真人</td> <td style="width: 25%;">企画部計画推進室計画調整課主査</td> <td style="width: 25%;">坂田悟</td> </tr> <tr> <td>同地域振興課長</td> <td>佐藤安浩</td> <td>同計画調整課主事</td> <td>上戸泰裕</td> </tr> <tr> <td>同市民福祉課長</td> <td>吉田修一</td> <td>教育委員会生涯学習部文化財課長</td> <td>蛭子井慶治</td> </tr> <tr> <td>同産業建設課長</td> <td>西村雅人</td> <td>同文化財課主査</td> <td>吉田力</td> </tr> <tr> <td>同地域振興課主査</td> <td>佐々木愛</td> <td>教育委員会学校教育部教育政策推進室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同地域振興課主任</td> <td>村上周平</td> <td>学校再編・地域連携課長</td> <td>辰巳哲治</td> </tr> <tr> <td>同市民福祉課主査</td> <td>熊谷寿子</td> <td>同学校再編・地域連携課主査</td> <td>井本大士</td> </tr> <tr> <td>同産業建設課主査</td> <td>中村俊大</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>南茅部教育事務所長</td> <td>赤城司</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>同教育事務所主査</td> <td>種谷文秀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>市立函館南茅部病院事務長</td> <td>佐藤哲人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">（計17名）</p>			南茅部支所長	松浦真人	企画部計画推進室計画調整課主査	坂田悟	同地域振興課長	佐藤安浩	同計画調整課主事	上戸泰裕	同市民福祉課長	吉田修一	教育委員会生涯学習部文化財課長	蛭子井慶治	同産業建設課長	西村雅人	同文化財課主査	吉田力	同地域振興課主査	佐々木愛	教育委員会学校教育部教育政策推進室		同地域振興課主任	村上周平	学校再編・地域連携課長	辰巳哲治	同市民福祉課主査	熊谷寿子	同学校再編・地域連携課主査	井本大士	同産業建設課主査	中村俊大			南茅部教育事務所長	赤城司			同教育事務所主査	種谷文秀			市立函館南茅部病院事務長	佐藤哲人		
南茅部支所長	松浦真人	企画部計画推進室計画調整課主査	坂田悟																																												
同地域振興課長	佐藤安浩	同計画調整課主事	上戸泰裕																																												
同市民福祉課長	吉田修一	教育委員会生涯学習部文化財課長	蛭子井慶治																																												
同産業建設課長	西村雅人	同文化財課主査	吉田力																																												
同地域振興課主査	佐々木愛	教育委員会学校教育部教育政策推進室																																													
同地域振興課主任	村上周平	学校再編・地域連携課長	辰巳哲治																																												
同市民福祉課主査	熊谷寿子	同学校再編・地域連携課主査	井本大士																																												
同産業建設課主査	中村俊大																																														
南茅部教育事務所長	赤城司																																														
同教育事務所主査	種谷文秀																																														
市立函館南茅部病院事務長	佐藤哲人																																														
その他	<p>・報道関係      北海道新聞社      （計1社）</p> <p>・傍聴者      （計1名）</p>																																														

<p>1 開会</p> <p>地域振興課 (佐藤課長)</p>	<p>ただ今から、令和元年度第1回函館市南茅部地域審議会を開催する。</p>
<p>2 会長あいさつ</p> <p>熊谷会長</p>	<p>昨日は大変蒸し暑い1日であったが、今日は一転して雨模様で幾らか涼しい1日となった。皆様にはコンブ盛漁期の大変お忙しい中、御出席をいただき感謝申し上げます。本日の審議会であるが、本地域での平成30年度事業の実績報告や令和元年度事業計画についてのほか、史跡垣ノ島遺跡の整備や南茅部高校の現状についてなど、本地域にかかわりの深い事項について報告を受ける。また、地域振興全般に関する意見交換の後、当審議会も後2回でその役割を終えることとなり、来年度からのあり方について説明を予定しているので、皆様からの御意見・御提言をいただき、これからの地域づくり、地域活性化のために御協力をいただきたい。よろしく願います。</p>
<p>3 支所長あいさつ</p> <p>松浦支所長</p> <p>地域振興課 (佐藤課長)</p>	<p>着任後4か月が経過しようとしており、この間、委員の皆様には様々な場面でおいしているが、改めてよろしく願いたい。</p> <p>令和元年度第1回地域審議会の開会にあたり、ごあいさつを申し上げます。本日は、コンブの盛漁期を迎えて大変お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。日頃から、地域振興はもとより、市政全般にわたって、御理解と御協力を賜っていることに対し、厚くお礼申し上げます。本日の審議会は、本地域における平成30年度事業の実績報告や令和元年度事業計画について報告をさせていただくほか、地域振興について意見交換をしていただく。また、地域として関心の高い事項である史跡垣ノ島遺跡の整備について、地域連携特例校制度と南茅部高校の現状について、関係部局から報告が予定されているので、委員の皆様のお意見や御提言を賜ればと考えている。結びになるが、令和という新元号の最初の年が、この南茅部地域にとって大漁で災害のない、よい年となることを御祈念申し上げて私からのあいさつとさせていただきます。よろしく願います。</p> <p>本日出席している企画部および教育委員会の職員を御紹介させていただきます。企画部計画推進室計画調整課の坂田主査、上戸主事、教育委員会生涯学習部文化財課の蛭子井課長、吉田主査、教育委員会学校教育政策推進室学校再編・地域連携課の辰巳課長、井本主査である。</p> <p>会議に先立ち、地域審議会委員に交代があったので、御報告をさせていただきます。昨年12月1日から函館市PTA連合会から推薦をいただき委員をお願いしていた成田英晴さんであるが、今年6月1日付で加我義幸さんに交代</p>

	<p>した。今回の交代は臼尻小学校の役員の改選によりPTA会長が変更となったことによるものである。なお、加我委員は、本日所用のため欠席となっているが、よろしく願います。</p>
<p>4 出席委員の報告</p>	
<p>地域振興課 (佐藤課長)</p>	<p>本日は、出席者10人、欠席者5人であり、出席者が過半数に達していることから、地域審議会の設置に関する規程第8条第3項の規定により、会議が成立していることを報告する。</p>
<p>5 諸般の報告</p>	
<p>熊谷会長</p>	<p>諸般の報告について、報告をお願いします。</p>
<p>松浦支所長</p>	<p>諸般の報告をさせていただく。報告事項は全部で4点ある。</p> <p>1点目は、地域審議会委員による地熱発電事業現地見学会の開催についてである。これは地域審議会での御意見・御要望を受け、5月27日に開催し、当委員から6名の方に御参加をいただいた。事業者からは、泣面山頂上から東へ約1.5キロメートルの地点で発電所の建設を予定していること、また、送電規模は約5,000キロワット程度で着工は2020年を予定していることなどといった事業概要について説明を受けた後、現地見学に行ったところである。</p> <p>2点目は、鈴木北海道知事の垣ノ島・大船遺跡等の視察についてである。6月6日に、鈴木知事が就任後初めて本市を訪れ、垣ノ島遺跡と大船遺跡、縄文文化交流センターを視察された。視察後、知事からは「縄文遺跡群の重要性を改めて認識した。北東北とともに道をあげて大きなうねりを作りだしていきたい。」との抱負が述べられた。世界遺産にかかわっての今後のスケジュールは、昨今新聞等でもいろいろ報道されているが、本年7月に大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産に登録をされたところで、順調にいくと、来年はユネスコに推薦されている自然遺産の「奄美大島・徳之島、沖縄島北部および西表島」が世界遺産に登録され、その後「北海道・北東北の縄文遺跡群」については、最短で考えると、再来年2021年の夏頃に正式登録となる予定である。縄文遺跡群の世界遺産登録が目前に迫ってきており、南茅部地域としても、今まで以上に機運の醸成を図っていくことが重要になっていくものと考えているので、今後とも、本審議会委員の皆様を初め、地域の関係団体や関係機関と連携を図ってまいりたいと考えている。よろしく願います。</p> <p>3点目は、第34回南かやべひろめ舟祭りの開催についてである。6月8日、臼尻漁港において開催され、今年は天候にも恵まれ、多数の方が来場された。舟漕ぎ競争を初め、小・中・高の児童生徒による踊りや書道パフォーマンスのほか、ステージショーなど多様なイベントが行われた。また、会場</p>

	<p>内には函館真昆布コーナーが設けられ、昆布の詰め放題や昆布だしの試飲のほか、浜鍋や真昆布ふりかけご飯セット等の販売が行われた。開催にあたり御尽力をいただいた関係者の方々に改めてお礼申し上げる。</p> <p>4点目は、令和元年第2回市議会定例会についてである。6月20日から7月11日までを会期として開催され、代表質問と個人質問あわせて18名の議員から質問があった。当地域に関連する項目として、代表質問ではひろめ荘および南かやべ保養センターの売却について、今後のスケジュールや地元資本を優先する考え方などはないのかといった質問があったほか、個人質問においても、ひろめ荘などの運営について、民営化後の経営についての市の考え方等について質問があった。南かやべ保養センターとホテルひろめ荘については、旧南茅部町当時、地域住民の健康づくりと観光振興を目的に整備されたものであり、両施設とも市内外から多くの方々に利用いただいている。先ほど世界遺産の話もあったが、今後さらに道内外の方々の利用を期待されるものとして重要な観光施設であると考えている。今後予定されている選定委員会での審査を経て的確な事業者を選定してまいりたいと考えている。また、地域の遠山議員からは、将来を見すえた漁業のあり方について、漁業法の改正を初め、担い手不足対策やコンブの流通の拡大等についての質問や提言があった。</p> <p>以上で、諸般の報告を終わる。</p> <p>熊谷会長 質疑に入る。質問はあるか。</p> <p>(なし)</p> <p>熊谷会長 地熱発電事業の現地視察をしたが、あの場所にいろいろな建物が建つということに興味深いものがあった。発電所が稼働した時に、また声がけして行ける人だけでも行ってみたいと思う。</p>
<p>6 議題</p> <p>(1) 平成30年度(2018年度)事業の実績報告について</p> <p>熊谷会長</p> <p>地域振興課 (佐藤課長)</p>	<p>(1) 平成30年度(2018年度)事業の実績報告について、説明をお願いする。</p> <p>資料1により御説明する。</p> <p>1ページであるが、平成30年度の事業実績総括表である。「1. 多様で力強い産業を振興するまちづくり」から、「5. 連携と交流によるまちづくり」までの5つの区分となっており、南茅部地域の平成30年度実績(A)の下段の総合計は4億3,629万5千円となっている。対前年度実績であるが、29年度実績(B)の総合計は2億4,758万1千円となっており、2か年を比較すると1億8,871万4千円の増となっている。増額の主な</p>

理由としては、「1. 多様で力強い産業を振興するまちづくり」の「(5)観光の振興」で、ホテルひろめ荘と保養センターの改修工事費やホテルひろめ荘等の民営化経費の増などで1,507万4千円の増となっている。次に、「2. 安全で快適な生活環境を充実するまちづくり」の「(5)生活環境の整備充実」で、臼尻簡易水道の配水管整備事業費の増などで5,730万4千円の増となっている。次に、「4. いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」の「(1)生涯学習の推進」で、南茅部プールの改修工事費の増による1,782万円の増と、「(4)特色ある地域文化の創造」で、史跡垣ノ島遺跡整備事業費の増などによる1億1,674万1千円の増が主な理由となっている。

2ページから、項目ごとに南茅部地域関連分について御説明する。「1. 多様で力強い産業を振興するまちづくり」の「(2)水産業の振興」の「漁港の整備」であるが、北海道が行う漁港整備や機能保全事業にかかる市の負担金で、川汲漁港に係る水産物供給基盤機能保全事業費負担金として予算額40万円であったが、実績は0円となっている。川汲漁港の浚渫工事は実施したが、市の負担を生じる事業となる船揚場補修計画策定の詳細調査は行わなかったため市の負担がなかった。次に、「漁場の造成」の漁場管理保全事業費補助金であるが、漁協が事業主体として行った雑海藻駆除事業に対する市の補助金で5万8,700平方メートルを実施し、2,150万円の補助となっている。次に、「ウニ・アワビ種苗等放流」で資源増大・有効利用対策事業費補助金であるが、漁協が事業主体として行ったウニ種苗100万個の放流事業に1,500万円と、ナマコ種苗10万個の放流事業に150万円を補助している。次に、「漁業用機械等購入資金の融資」である。この事業は、資料の区分上、総額分に含まれているものになるが、当地域では、18件に対して2,538万円の貸付実績となっている。以降【総額】と記載されているものは、区分上、総額分に含まれているものになるが、南茅部分として抜き出しできるものについては、括弧書きで記載している。次に、「漁業後継者対策」で、これも総額分であり当地域では、漁業資格取得費補助として、4人に対し12万円を補助している。次に、「その他関連事業の推進」の漁船施設整備事業費補助金であるが、船揚場の維持補修にかかる補助金で、斜路の補修や土砂の除去など、11か所の事業に対して283万9千円を補助している。続いて、「(3)農林業の振興」の「市有林等の整備」で豊崎町、大船町の市有林の下刈りや間伐などの事業を実施したもので237万円となっている。

3ページであるが、「(5)観光の振興」の「観光・宿泊施設の整備」であるが、南かやべ保養センター浴場の改修工事で1,418万1千円とホテルひろめ荘源泉ポンプの改修工事で448万2千円となっている。次に、「各種イベントの支援」で、ひろめ舟祭りに対する開催負担金で400万円となっている。次に、「その他関連事業の推進」で、保養センターとひろめ荘の民

営化経費として969万5千円となっている。

4ページであるが、「2. 安全で快適な生活環境を充実するまちづくり」の「(2)消防・防災・生活安全の充実」の「各種消防・救急車両の整備」で総額分であるが、消防団第3分団への小型動力ポンプ付積載車の更新で1,760万4千円となっている。次に、「河川の整備」で、八木川の堆積土砂除去等事業で130万円となっている。次に、「小規模治山事業」で、川汲町で実施した治山事業で1,574万6千円となっている。次に、「(3)交通・情報ネットワークの形成」の「その他関連事業の推進」で、地域福祉バス運行経費として473万2千円とスクールバス運行経費として1,460万4千円となっている。

5ページであるが、「(5)生活環境の整備充実」の「水道の整備」で、臼尻簡易水道の配水管整備で1億3,262万円と、木直・尾札部・大船簡易水道の漏水調査で149万2千円となっている。次に、「合併処理浄化槽の設置促進」で総額分であるが、合併処理浄化槽の設置補助として、南茅部地域では3件、164万5千円となっている。

6ページであるが、「3. やさしさとぬくもりのあるまちづくり」の「(1)保健・医療の推進」の「医療機器の購入ほか」であるが、医療機器整備事業として、超音波診断装置の更新などのリース料223万8千円となっている。次に、「(3)高齢者福祉の推進」で、総額分であるが、「ひとり暮らし高齢者等緊急通報システムの整備」で、南茅部地域では8台設置し、平成31年3月末で79台の設置となっている。次に、「その他関連事業の推進」で、65歳以上の方が対象となっている高齢者温泉等入浴優待事業で689万8千円となっている。

7ページであるが、「4. いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」である。「(1)生涯学習の推進」の「既存スポーツ施設の整備」であるが南茅部プール改修工事について訂正がある。トップライトの撤去工事は実施しなかったもので、屋根改修のみの工事で1,782万円となっている。資料中のトップライト撤去の記載は削除をお願いします。次に、「その他関連事業の推進」で、総額分であるが、もと南茅部青少年会館の解体費として1,802万1千円となっている。次に、「(4)特色ある地域文化の創造」の「大船遺跡等の保存・整備」であるが、史跡垣ノ島遺跡整備事業に係る実施設計や整備工事ほかで1億4,595万円と、縄文遺跡群世界遺産登録の推進経費で391万3千円となっている。次に、「その他関連事業の推進」で、発掘調査にかかわる、国からの受託事業費で98万3千円となっている。

8ページであるが、「5. 連携と交流によるまちづくり」である。「(1)住民参加の推進」の「その他関連事業の推進」であるが、古部会館の屋根や外壁などの改修工事費で1,243万2千円となっている。

説明は、以上である。よろしく御審議願う。

熊谷会長	<p>質疑に入る。質問はあるか。</p> <p>実績として多かったのか少なかったのかは、皆さん疑問を持つところもあると思うが、今後も地域に対して市で配慮していただけたらと思う。</p> <p>皆さんになれば1つ、7ページの「4. いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」の「(1)生涯学習の推進」の「その他関連事業の推進」であるが、もと南茅部青少年会館の解体費に1,800万かかっている。これは、終わったことでやむを得ないと思うが、地域の中で今後廃止される会館等の公共施設について、できれば地域の業者を使ってもらえないものか。1,800万が本当にかかるのかどうなのか。地域の業者の仕事が少なくなっている関係もあるし、地域の業者に任せていただければ解体費用ももう少し安くなるのではないのか、地域のことなので地元の業者としても協力したいという考え方もあるようなので、その辺を少しでも考慮していただければという声もあるが、その点についてどうか。</p>
地域振興課 (佐藤課長)	<p>地域の事業者を使って解体できないかということであるが、調度課が業者選定をしている。物品購入や小規模な修繕的なものについては、地域の業者に発注しているが、大きなものは全市的に決めていくというルールがあり、ランクもあり1,800万規模の工事になると地元の方を使ってというのがなかなかできず、御希望に添えるかどうかは何とも言えない。ルール的には難しいと思っているが、地域の声ということで、その辺は伝えていきたい。</p>
藤川委員	<p>3ページの「(5)観光の振興」についてお聞きしたい。南かやべ保養センター改修工事1,418万1千円、ホテルひろめ荘の改修工事448万2千円、南かやべ保養センター・ホテルひろめ荘の民営化経費969万5千円とあるが内容を教えてほしい。</p>
産業建設課 (西村課長)	<p>南かやべ保養センターの改修工事は、括弧内に浴場とあるが主に露天風呂の改修工事を実施している。ホテルひろめ荘の改修工事は、括弧内に源泉ポンプとあるが、建物の裏に源泉があり2年に1回ポンプを更新しなければならないものでその更新である。南かやべ保養センター・ホテルひろめ荘の民営化経費であるが、民営化、売却にあたって土地の確定の測量、建物の診断と、建物の評価、非常灯の取替などを実施した経費である。</p>
藤川委員	<p>了解した。</p>
熊谷会長	<p>そのほかはないか。</p>

(なし)

(2) 令和元年度（2019年度）事業計画について

熊谷会長

(2) 令和元年度（2019年度）事業計画について、説明をお願いします。

地域振興課

資料2について御説明する。

(佐藤課長)

これについては、前回の地域審議会では今年市長選があったため、基本的な経費を中心とした予算を編成しており、新規の事業や政策的な予算は、選挙後の議会で決定されることになるため、事業計画について改めて御説明したいとお話した。南茅部地域に関連した予算について、前回説明した当初の予算と議会後の予算を比べて変更がなかったため、詳細の説明は割愛させていただき、1ページの総括表により前年度予算額と大きく増減のあったものについて御説明させていただきたい。よろしくをお願いします。

1ページであるが、令和元年度の事業費総括表となっている。南茅部地域の欄の、元年度予算額(A)の総合計であるが3億9,988万1千円となっている。平成30年度予算額(B)は5億2,398万9千円となっており、差し引き1億2,410万8千円の減となっている。予算増減の主な内容としては、「1. 多様で力強い産業を振興するまちづくり」の「(2)「水産業の振興」でコンブ増殖場の単体礁設置に係る事業費負担金と漁協の種苗生産施設3か所への非常用発電機設置に係る補助金により3,396万6千円の増、「(3)農林業の振興」で市有林等の整備事業で1,303万7千円の増、「(5)「観光の振興」で保養センター改修工事費の減と、ひろめ荘等の民営化経費の減により1,708万1千円減となっている。次に、「2. 安全で快適な生活環境を充実するまちづくり」になる。「(2)消防・防災・生活安全の充実」でJアラート整備事業と南茅部支所への非常用発電機の設置などにより1,876万4千円の増、「(5)生活環境の整備充実」で配水管整備事業の減により1億3,907万4千円の減となっている。次に、「いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」になる。「(1)生涯学習の推進」で南茅部プールの屋根改修工事費の減により1,800万円の減、「(4)特色ある地域文化の創造」で史跡垣ノ島遺跡整備事業費の減などにより1,125万3千円の減となっている。次に、「5. 連携と交流によるまちづくり」になる。「(1)住民参加の推進」で古部会館の改修の2か年目であるが、事業費の減により529万9千円の減となっている。

説明は、以上である。よろしく御審議をお願いします。

熊谷会長

前回の審議会でも一度説明しているため、総括で説明していただいた。30年度より約1億2千万円減り、約3億9,900万円の予算であるが、例年どおりの事業を実施していただけることになっている。

中村委員	質問でないが、お礼の言葉を申し上げる。水産業の振興の関係で今年度は新たに天然マコンブの藻場礁の設置、昨年の大規模停電のため私どもの種苗センターの発電機の設置、これがものすごい金額であるが市から補助してもらえるとということで函館市の配慮にこの場を借りてお礼を言いたい。
熊谷会長	漁協関係からのお礼である。藻場の漁礁は年間何基くらいずつ設置していくのか。
地域振興課 (佐藤課長)	3か年で実施する。3か年で180基、1か年60基ずつを、設置していくこととして、今年度は木直と尾札部で実施する予定である。
中村委員	その件について、藻場礁であるが各地域で新規に要望が増えてきている。他の地区も同じように天然コンブが厳しい状況である。結構高額であり、そういう面でうちだけという話にもならないので若干基数は減るみたいである。
熊谷会長	天然コンブについては減産しているので、これを機会にいい方向に進めばと思う。ほかにあるか。
工藤委員	「2. 安全で快適な生活環境を充実するまちづくり」にかかわることで、家で防災無線が、聞こえたり聞こえなかったりする。以前、職員の方に話したところ、家が建っているところは山に挟まれていて春になると木々の葉が生い茂って、電波がいかないのではということだったが、笑い話では済まない。Jアラートの整備とあるがそれ以前のことではないかなと思う。以前から何か鳴っている時には窓を開けて耳を澄まして何を言っているのかなという感じである。万が一、防災、この前、水道が止まったがそういう非常事態の時にこれでは困る。うちだけの問題なのかなと思った。もし地域でそういう家庭があるのなら、もう一度聞き取りして考えてくれないかと思う。
地域振興課 (佐藤課長)	もし、家にある戸別受信機の聞こえが悪いことに気がつけば、支所に連絡をいただければ担当職員でできるものであれば対応するし、そうでなければ保守委託をしている業者がある。見ないと何とも言えないので、どこの誰のものが聞こえないと連絡をいただければ担当に調査させる。防災などの時に役に立たないと困るので、きちんと対応させていただく。
工藤委員	そういう訴えは今までないのか。
地域振興課 (佐藤課長)	聞こえないという連絡があると職員が家に調査に行っている。よく、「試験中です。」と無線がかかることがあるが、戸別受信機を直している時、聞

	こえるかの試験をしているものである。必ず対応するので、言っていただきたい。
藤川委員	それについて少しアドバイスしたいが、テレビを消すと聞こえる。
高谷委員	前に家でも聞こえなくなったことがあった。今、LEDの照明を使う家が多いが、妨害する電波が出ているみたいで、消せば聞こえることがある。
地域振興課 (佐藤課長)	聞こえなければ連絡をいただきたい。調査する。
熊谷会長	ほかにないか。  (なし)
7 地域振興全般に関する意見交換	
熊谷会長	<p>地域振興全般に関する意見交換である。皆さんから何かあるか。</p> <p>なければ2点ほど私からお伺いする。支所長から冒頭ごあいさついただいた中に、ひろめ荘の民営化の関連、現在、選定委員会で選定する方向で進めているこのことについて、今後の日程を地域審議会の皆さんにお知らせいただければと思う。民営化に向けた市の思いがあれば述べていただきたい。</p> <p>もう1つは縄文遺跡群の世界遺産推薦について、情報によると、明日、文化庁からその旨発表される予定だという思いで、皆さんがいるみたいだが、その関連で地域として今後どのように取り組んでいくのか、市として推薦が決定された後の取り組みについても、現在述べられる程度で結構なのでお知らせいただきたい。</p>
松浦支所長	<p>ひろめ荘については、来年4月から保養センターとともに、民間へ売却ということで手続きを進めており、現在手挙げをしている事業者がある。今後、現地説明会や書類等の審査があり、それをクリアすると、9月中には、選定委員の方々が、事業者から資金計画等について聞き取りをして、その中で基準をクリアしたところと契約を交わし、12月の議会で議決を得た後に、来年4月1日から民営化というスケジュールで進んでいる。</p> <p>民営化に向けた市の思いとのことであるが、南茅部町当時から非常に大切にされてきた保養センターは、地域の方々が銭湯代わりに利用されている。ひろめ荘についても宴会などで地元の方々が利用している。市外の方ももちろんであるが、地元の方々にこれだけ愛されている施設を何としても継続して残さなければならない。将来的に5年、10年、20年、30年と考えると、市がいつまでも施設を抱えているより、民間の資金力や発想ということ</p>

が今回の出発点になっている。その中で事業者が選定され、市として何ができるのかとなると、例えば国道278でつながる函館、戸井、恵山であればなとわ・えさん、椴法華の恵風、南茅部のひろめ荘、鹿部町の間歇泉、大沼までの広域観光ルートの形成。また世界遺産に位置づけられている遺跡の近隣にあるひろめ荘は、より集客も期待できるであろうし、そういう中で市としてもいろいろとPRしていきたいと考えている。そこは事業者からも、いろいろと提案もあると思うが、一緒に盛り上げてひろめ荘をさらにワンランク上の施設としてもっていければと考えている。

教育委員会  
(蛭子井課長)

先ほど会長からお話があったが、明日、文化審議会の世界文化遺産部会が午後1時半から開催され、3時頃終了の予定である。今年の審議の対象は「北海道・北東北の縄文遺跡群」のみとなっている。去年国内推薦候補を部会として決めていることなので、今年1月の文化審議会の部会でその内容を引き継ぐことを基本とするという考え方が示されている。青森県を中心とした推進本部で推薦書を提出しているので、部会の審議で、問題ないということが確認できれば国内推薦候補に選定されるのではないかと明日を心待ちにしているところである。皆様に御案内するが、明日、国内推薦候補に選ばれた場合には午後5時から縄文文化交流センターでくす玉割りなどのセレモニーを考えているので、お手すきの方がいらっしゃれば縄文文化交流センターにお集まりいただければと思う。我々も結果を聞いて、3時半から本庁舎の正面で新しく作成した懸垂幕をお披露目した後、こちらに来たいと思っている。

地域としてどう取り組んでいくかということであるが、これから世界遺産ということが、より具体化してきて、地域にイコモスの調査の方を含めて入ってくる。登録されてからが我々としてはスタートだと思っており、登録までは、あくまで準備期間と考えている。世界遺産をどのように守って、どのように活用していくか、世界遺産という名前をどのように使っていくかというのは、我々ももちろんであるが、地域に住まわれている方々にとっても非常に大きな問題になってくると思う。具体的には、これから皆様と一緒に議論をしていかなければならないと思っているので、今後とも御協力をお願いしたい。

市の取り組みとして、スケジュール的には、国内推薦候補になると9月末までに国から暫定版の推薦書をユネスコに提出する。その後、年明けくらいに閣議了解を経て、1月末までに国として正式版の推薦書を提出する。来年の夏過ぎから秋にかけてユネスコの諮問機関であるイコモスが17の資産全てを回って調査する。その際には、地元としてこの資産をどのように考えているかということを含めて調査が入る。それらのリハーサルも含めて、これから1年間、我々も準備を進めていく。そこでの調査に対する回答と結果が登録に向けての大きなハードルになると考えている。きちんとした答えを返

さなければ登録は難しいということになるので、その辺はまた皆様の御協力をいただきたい。その後、2021年の春くらいにイコモスから評価結果の勧告が出る。勧告には、「記載」、「情報照会」、「記載延期」、「不記載」の4種類があるが、「記載」の勧告をいただけるように準備を進めていくことになる。「記載」の勧告を受けた、大阪の「百舌鳥・古市古墳群」が7月に開催されたユネスコの国際会議で登録決定された。その国際会議で登録の可否が決まる。「記載」となれば、最短で2021年夏頃の正式登録と考えられる。その間、教育委員会としては、学術的な説明や地域における遺跡の位置づけを説明していくというのが第一の仕事になる。プラス登録後、例えば観光面での来客数の増加をどのように維持していくか、どういった活用をしていくかということが非常に大事になっていく。先般保存活用協議会というものを立ち上げている。地元の方を含めて委員になっていただき、8月下旬には開催したいと思っている。そこで保存・活用や景観保全などを協議していただき、それらを参考に我々の考え方とどういうふうに擦り合わせをしていくかということになるが、地元の方の御意見を聞きながら、また小・中学校の校長会にもメンバーになっていただいているので、学校での活用の方法についても視野を広く、多角的に活用していくことを考えている。今早速に取り組みたいと考えているのは、地元の2遺跡を御案内できるボランティアガイドの育成である。地元にも縄文関係の取り組みをしていただいている団体があるが、遺跡の案内というところまでは、至っていない。大船遺跡は通常公開しており管理人の方に案内をお願いしているが、垣ノ島遺跡は整備中ということもあり、公開するには全て職員が解説している。そこも含めて地元の方、地元に限らずそういった活動をされている方に広く声をかけて、ボランティアガイドをできるだけ早く、世界遺産登録までには整備し、育成したいというのが我々の直近の大きな課題と考えている。

熊谷会長

ただ今の2点については、地域振興全般にわたって本当に大事なことと思っている。このことについて皆さんから意見・提言をいただきたいがいかがか。

ひろめ荘については民営化になってどうなるのか、皆さん心配されている方も無きにしもあらずで。このことについてでもいいし、今後のひろめ荘はこうあってほしい、という思いがあれば、この場で述べていただければ選定委員会にそのことも伝えていきたいと思うが、何かないか。

佐々木委員、地元になるが何かないか。民営化されてプラスになるかマイナスになるかは、事業者の努力次第なので、わかりづらい面もある。

佐々木委員

予想よりも高額で、今までよりサービスが低下するような噂がある。

藤川委員

噂ではバスでの送り迎えができない。経費の面でそういう話が出ている。

熊谷会長	それは事業者が考えることだから選定委員会でこれいいですよ、だめですよということにはならないと思う。
佐々木委員	20年以上も経って、そんなに資産価値があるのかと思う。
熊谷会長	支所長から何かあるか。
松浦支所長	私の方にも、高いのではという声は届いているが、きちんと鑑定した中での額ということであり、私も不動産鑑定士と直接話をしている。サービスが低下するとか、バスの話だとかいろいろと聞こえてくるが、一方で事業者からは、将来に向けた前向きな投資ということも聞いている。具体的内容をこの場でお話するわけにもいかないが、これから選定委員会の中でどういう議論が交わされるのか、私どもも注視してまいりたいと思っている。
熊谷会長	<p>基本的には現行の運営状態、これはきちんと継続していただくということと、サービスの低下を招かない、それ以上にサービスが向上できれば一番いいだろうけれども、それを事業者が100%実行できるかということにもなるのでその点は選定委員会にお任せしたいと思うが、そのほかに要望はあるか。</p> <p>(なし)</p>
熊谷会長	<p>縄文遺跡群について、課長から詳しく説明をいただいた。</p> <p>地域振興に関することは質疑を終了する。この後、垣ノ島遺跡の整備についての説明もあるので、その時に関連で質問をいただければと思う。</p>

## 8 その他

### (1) 前回の地域審議会での質問への回答について

熊谷会長 (1) 前回の地域審議会での質問への回答について、報告をお願いします。

産業建設課 (西村課長) 雑海藻駆除でウニが食べる雑海藻まで駆除し、天然コンブに影響しているのではないかという話を聞く、因果関係がはっきりしなくても、影響があるとすれば、雑海藻駆除もウニの種苗放流も縮小せざるを得ないと思っているが、その点についてはどう思っているか。という御質問であった。

前回の地域審議会でもお話したとおり、函館水産試験場など関係機関に確認したが、ウニとコンブの因果関係についてはどこの機関でもはっきり言えないという回答であった。天然コンブが最近減産続きであるため、増産対策は欠かせないものと思っている。また、ウニ種苗放流についても、コンブ漁業以外で得ることのできる貴重な漁労収入となっていると認識している。市としては漁協が実施する雑海藻駆除およびウニ種苗放流などの増産事業に対し支援を続けていきたいと考えている。

以上である。

熊谷会長 質疑に入る。質問はあるか。

今後も漁協の運営については一生懸命協力していくということである。また具体的に疑問があれば、その都度言っていただければと思う。

中村委員 前回の審議会は私は欠席していたが、委員の皆さんが地域の漁業者の方から様々な意見を聞いて質問されたのかなと思う。漁協でもこの件については十分審議されている。ただ6支所地区あるのでウニについてはいろいろな意見がある。天然コンブがこういう状況の中でナマコ、ウニが収入となっている漁業者もいる。ウニについては磯焼け状態とか様々な話があるが、ウニの種苗は、もともと鹿部にあった栽培公社から購入していたが、その公社がなくなったため知内の方から急遽供給することになった。今、100万個の供給体制を半分にするとか、やめる、何年か休むとなれば漁協とすれば非常に危険である。将来のウニの生産を考えた場合、漁業者からいろいろ課題もあるが継続してほしいということもあり、漁協として議論の余地があるが、そこはマコンブの増産対策も含めた中で、ウニの関係も十分検討していきたいと思っている。地域の皆さんの心配として漁協でも十分協議して方向性を出していきたいと考えている。

熊谷会長 何が原因なのか関係機関でもいまだにはっきりした答えが出ていないみたいであるが、引き続き、新しい方向が出たらお知らせいただければと思う。よろしいか。

(異議なし)

(2) 史跡垣ノ島遺跡の整備について

熊谷会長

(2) 史跡垣ノ島遺跡の整備について、報告をお願いします。

教育委員会  
(蛭子井課長)

資料3「史跡垣ノ島遺跡整備実施設計の概要について」をお配りしている。3枚目の完成予想図を御覧いただきながら実施設計の内容を御説明する。図面左側にバイパス道路と縄文文化交流センターがある。縄文文化交流センターのバイパス側の壁が切れたところにメインの入口をつくる予定としている。上に「入口ゲート」という図があり、灰色の壁の横に黒っぽい壁があるが、そちらを入口ゲートとすることで縄文文化交流センターと一体となるつくりを考えている。そちらから入って赤茶色の通路がメインの園路になっている。縄文文化交流センターの壁の裏手の車いす等でも通行可能な勾配を下りて行くと、少し広くなったところに展望デッキがある。下に「展望デッキからの眺望(想定図)」とあるが、遺跡全体を見渡せる位置に展望デッキをつくっている。そこから階段もしくは車いす等の方はつづら折りになっている勾配の緩いスロープを下りるとエントランス広場に着く。エントランス広場では、まず遺跡の全体的な紹介、遺跡の立体の模型、世界遺産に関する17の資産共通のサインを置く。また史跡としての標柱も設置する。こちらから上を見ると広く緑色に塗っているが、こちらは芝生広場としてイベント等でも利用していただけるように芝生を張って整備する。芝生広場の右側に、ちょっとしたスペースがあり施設が3つある。1つは少し黒く塗っているところで体験学習を準備したり、そこでレクチャーを受けたりすることができる、四阿(あずまや)の大きいもので、壁のない屋根だけの施設になる。その下が土器焼きを体験できるコーナーで、火を起こせる場所になる。その下に発掘体験コーナーということで、実際の竪穴住居をモデルとした穴をつくっておき、土をかぶせて発掘調査を擬似体験できるコーナーを設けている。メインの園路に戻って右に進んで行くと右下に丸をいくつか書いているところがあり、ここが竪穴建物群になる。ここでは、現在でも竪穴建物跡のくぼみそのまま残っており、その周りに芝生を張って補助園路をつくって、近くまで行けるようにする。このくぼみは、いつの時代の竪穴建物跡ですというような解説を設けながら御覧いただき、実際の住居跡を見てもらうことを考えている。さらに右側に進むと、この遺跡の最も特徴的な遺構である盛り土遺構がある。盛り土遺構については、図の上側があいたコの字形になっている。こちらは既に造成工事済みである。この地域は昭和4年に噴火した駒ヶ岳の火山灰が堆積している。その火山灰を取り除くと昭和4年より古い時代の地形になる。一部開墾されたということがあったかもしれないが、基本縄文時代に近い地形であることが、これまでの調査でわかっていることから、火山灰を取り除き必要な保護層で被覆をし、現在2分の1程が芝

生を張った状態になっている。整備範囲のほぼ中央の、図で灰色に塗られた多目的スペースというところにはトイレと管理棟を設置する。例えば、足が弱くて長時間歩けないとか、車いすの方に車を停めていただき、近くから盛り土遺構に向かっていただくことを考えている。そのほか、メインの園路は基本的にバリアフリー対応としている。遺構の辺りには解説板を置き、適所にベンチを設置することとしている。また植栽等として遺跡の外側にある現代的な建物をなるべく遮蔽していこうということで、市道臼尻東海線に沿ってクリの木を植えていく。バイパス側も今は盛り土遺構からバイパスが見えているので、そこについても修景をしていくことを考えている。資料では今年度の事業、来年度の事業と年度で分けているが、今年度は園路や広場の造成を行い、来年度は建物や残りの造成を行う。来年度内に完成させて2021年4月に供用開始する予定で、ちょうど最短で世界遺産登録の年の夏前に一般公開するように考えている。

雑ぱくであるが全体の考え方となる。基本的には、前にも御説明した基本構想、基本計画と大きく変わっていない。

以上である。

藤川委員

先ほど堅穴建物跡を見せるという説明を受けたが、大船遺跡のような復元住居はつくらないということか。

教育委員会  
(蛭子井課長)

以前にもそういう御質問があり考え方をお話したと思うが、堅穴建物跡の住居そのものの復元は、想定での復元になるが、それについては、大船遺跡は発掘調査をあの区域全面で行っているため、いつくらいの時期の住居がどのくらいあるのかなどが、あらかじめわかっている。垣ノ島遺跡は全体の2%弱の発掘調査しか実施していない。その前に公開に向けて動いた方がいいということで、まず最低限公開できるような整備をすることとしている。堅穴住居を復元するということは、詳細な発掘調査をして、それを保護しながら上物をつくっていくことが必要になるので、それを行うとなると一般公開はまだまだ先ということになってしまう。世界遺産を見据えた中で公開を優先していかなければならないということで、後々住居の復元も考えられるが、垣ノ島遺跡は大船遺跡と役割を変えて、特に盛り土遺構は巨大な遺構であり、当時の地形や風景、雰囲気をおの場に立って、まずは見て感じていただくことを考えている。今後も発掘調査は少しずつ続けていくことを考えているので、まだまだ広範囲で面積も広いため、新たな成果が出れば、それをまた御覧いただくという形で可変性のある整備ということを考えている。

まずオープンにあたっては、建物の復元はしないということで御理解いただきたい。

藤川委員

はい。

熊谷会長	<p>そのほかにないか。</p> <p>芝生広場をいろいろなイベントで使うということであるが、現在、縄文まつりをやっているが、こういう類いのものについても可能と捉えていいのか。</p>
教育委員会 (蛭子井課長)	<p>そのつもりである。地域のイベントはあちこちでいろいろな形でやられていると思うが、特に縄文文化交流センター近辺では毎年縄文まつりを開催している。今駐車場を使っているが、それも遺跡の中でやっていただくことは可能と考えている。それに対応できる広場も整備予定で、今後の管理の仕方にもよるが、様々な形で地域の方々に活用していただきたいと考えている。</p>
熊谷会長	<p>概ね2年くらいかけて整備するということであるので、できたら皆さんに利用していただければと思う。</p>
工藤委員	<p>遺跡の見学は、有料になるのか無料なのか。</p>
教育委員会 (蛭子井課長)	<p>垣ノ島遺跡の見学は今のところ無料と考えている。いろいろな考え方があがるが、例えば、三内丸山遺跡が有料になったということがある。あれはガイダンス施設を新たにつくって、そことセットという話である。縄文文化交流センターとのセットということもあるが、現時点で垣ノ島遺跡を有料にした時に周りからも遺跡内に入って来られる。柵を全部に巡らせるわけではない。そういった管理の問題、それから整備が基本的なベースの整備になるので、お金を取れる施設なのかということもあるので、現時点では使用料をいただくということは考えていない。今後の整備はまだ先になると思うが、そういった中でガイダンス施設とセットで何か新たな展開を進めていくということになれば有料化ということはあるかもしれないが、現時点では有料にするということは考えていない。</p>
熊谷会長	<p>よろしいか。</p>
工藤委員	<p>はい。</p>
熊谷会長	<p>あればまた次の機会に質問・提言していただければと思う。</p>
<p>(3) 地域連携特例校制度と南茅部高校の現状について</p>	
熊谷会長	<p>(3) 地域連携特例校制度と南茅部高校の現状について、報告をお願いします。</p>

教育委員会  
(辰巳課長)

南茅部高校が、現在指定されている地域連携特例校制度と南茅部高校の現状について御報告させていただく。資料4を御覧いただきたい。地域連携特例校制度については、昨年度の第1回南茅部地域審議会でご説明させていただいているが、改めて概要を御説明したい。南茅部高校は平成22年度から「地域キャンパス校」に指定され、再編整備の基準が緩和されてきたところであるが、昨年3月に北海道教育委員会から新たな指針により、「地域連携特例校」として、昨年4月から再スタートしたところである。お手元の資料上段の「地域連携特例校とは」を御覧いただきたい。地域連携特例校制度は、地域の教育機能の維持向上の観点や高校が地域で果たしている役割等を踏まえ、第1学年1学級の高校のうち、地理的状况等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校は、地域連携特例校に位置づけ、地域連携協力校との連携した教育活動などにより教育活動の充実を図る制度である。南茅部高校の地域連携協力校は函館中部高校になっている。次に、資料中段の緑色の枠内の記載であるが、新指針においても引き続き緩和基準である第1学年の在籍者数が、5月1日現在において20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備を進めることとしている。さらにその追加項目がついており、その下の黄色の枠内の記載を御覧いただきたい。「地域の取組を勘案した特例的扱い」とは、学校と地域が連携した高校の魅力化や特色づくりなどの取組を積極的に行い、その効果に勘案して、再編整備を留保するというものである。次に、その下の赤枠内の記載を御覧いただきたい。新指針において、第1学年の在籍者数が5月1日現在で、2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとなる。制度の概要は以上である。次に、南茅部高校の入学者数の現状についてであるが、今年度入学者した1年生の在籍者数は5月1日現在で9名となっている。また、来年度の南茅部地区の中学校の卒業生数は23名の予定であるが、過去の南茅部高校への進学率を勘案すると、来年度の入学者数は、今年度同様、10名以上の確保は厳しい状況と予想される。こうした状況については、南茅部地区の中学校はもとより、近隣の中学校のほか、先月に開催された南茅部町内会連絡協議会第1回会長会議でも御説明している。そういった中、今月22日には、南茅部高校主催による、「北海道南茅部高等学校の存続に関する検討委員会」が開催され、北海道教育委員会から高校の現状について説明がされたところであり、当日は、地域の皆様や、南茅部地区の小・中・高等学校の保護者の皆様などから、高校の存続や将来的な魅力化に向けて、多くの御意見があった。教育委員会としては、南茅部高校や地域の皆様とも連携し、高校の存続および教育活動の充実に向けた取り組みなどを進めていきたいと考えているので、地域審議会委員の皆様におかれては、引き続き、お力添えをいただければと思っている。以上が、南茅部高校にかかわっての御報告とお願いである。もう1点、南茅部地区の小・中学校の統合にかかわる進捗状況について御報告させていただきたい。磨光小学校・臼尻

	<p>小学校・大船小学校の統合および尾札部中学校・臼尻中学校の統合については、すでに統合方針が決定され、小学校3校が令和4年度、中学校2校が令和5年度の統合を予定している。現在、統合準備委員会の設置に向けて各校と協議をしているが、小・中の連携や、委員が重複する場合の負担軽減などのメリットを考慮し、小・中で別々に統合準備委員会を設置するのではなく、小・中計5校で、合同の統合準備委員会を設置する方向で、準備を進めているところである。</p> <p>以上である。</p>
熊谷会長	<p>質問はあるか。</p> <p>南茅部高校については、2年連続で10人未満になると廃止の方向で協議せざるを得ないという説明であるがなかなか厳しい状況にある。子供の数も少ない中で、大体見込まれるわけである。今、中学生が何人いるか、今年何人生まれたかでわかる。そういう現状の中で、こういうふうにすれば残るのではといういい知恵があればいいが、ないか。特別に検討委員会をつくられているが、それ以外に地域の人たちの声が一番わかりやすく説得力があると思う。皆さんの中にも南茅部高校の出身者はいると思うが、自分の出た学校がなくなることのさみしさはあると思うので、できれば残してほしい。</p>
嵐田委員	<p>地域外からの募集は考えてないのか。</p>
熊谷会長	<p>地域外からもというお話であるが、考えているか。そういうお願いもしているし、各小・中学校について地域外にも声をかけているという捉え方でいいか。</p>
教育委員会 (辰巳課長)	<p>南茅部高校の管理職は、市内の全中学校を訪問し、南茅部高校をぜひ受験してほしいということでPRを行っており、とりわけ近隣の臼尻中と尾札部中においては、各校の3年生に直接アピールする場を毎年設けているところである。今年度は、さらに地域を広げ、市教委とも連携し、椴法華・恵山・鹿部地域の各中学校と日程調整しながら、生徒や保護者にアピールする機会を持ってないかと検討しているところである。また、南茅部高校では、ラグビーで活躍している生徒もいるので、その点もPRしながら、一人でも多く受験してもらえるように各中学校への働きかけをしていると聞いている。</p>
熊谷会長	<p>それぞれの事情もあるだろうし、一番のネックになるのは交通事情だと思う。これがある程度クリアできれば地域外からも来てもらえるのではと思う。現在旧市内に通っている子供たちは朝1番のバスで行き、部活もできずに7時くらいのバスで帰ってくる。そういう不便も強いられている子供たちもいる。中部高校との連携もあるのでこれをうまく活用していく手もあるの</p>

	<p>ではと思う。今後課題として検討していくということなのでいい知恵があればお貸しいただければと思う。</p> <p>よろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
	<p>(4) その他</p>
<p>熊谷会長</p>	<p>冒頭あいさつで申し上げたとおり、来年3月で地域審議会はなくなる。その後の組織として、仮称であるが東部地域まちづくり懇談会というものが検討されている。そのことについて説明をお願いします。</p>
<p>地域振興課 (佐藤課長)</p>	<p>資料に基づき御説明する。先ほど会長からお話があり、また以前本審議会でも地域審議会終了後の地域課題などに係る意見・要望の場についてお話があったが、企画部や4支所で、どのような形で聴取していくことが良いのかということなどについて、協議してきたところであり、一定の市の方針が決まったことから、御説明する。</p> <p>平成16年12月の合併に伴い策定した合併建設計画およびその執行状況の審議のために設置された地域審議会であるが、15年経過し、合併建設計画を延長しない方針が示されたことから、地域審議会も令和2年3月をもって終了となるところである。</p> <p>これまで、地域審議会では、合併建設計画の執行状況の審議などのほか、地域振興に関する意見交換などを行い、市に対する意見・要望を伺ってきたところであるが、東部4支所管内では、旧市域に比べ、過疎化・高齢化が進んでおり、引き続き地域振興に取り組むことが重要であることから、地域審議会の設置期間満了後においても、地域の方々から意見聴取を行う機会が必要であると考えており、戸井、恵山、榎法華および南茅部地域に共通する課題や地域の振興などについて議論し、地域のまちづくりにつなげることを目的とした、仮称であるが東部地域まちづくり懇談会を設置しようとするものである。期間は概ね令和6年度までの5年間とし、参集の対象は、東部4支所管内の町会、福祉関係、産業経済関係、教育関係などの16団体程度とし、年2回程度開催したいと考えている。</p> <p>懇談事項は、東部4地域に共通するような課題や地域振興に関することを考えており、これから詳細について検討を加えていきたいと考えている。</p> <p>以上である。</p>
<p>熊谷会長</p>	<p>質問はあるか。</p> <p>3月で地域審議会がなくなると、皆さんは元の生活に戻るようになるが、別にこういう組織があった方がいいなという名残惜しさもある方もいると思うが、何かないか。委員でなくなるから肩の荷がおりていいなという人もい</p>

	<p>るだろうが、ぜひとも参画してもらいたいと思う。こういう懇談会の組織づくりについて、皆さんから意見をもらえればと思うが、こういう組織でよろしいか。地域審議会として東部4地域1つになる。各地域に残らない。資料では、開催期間5年間を目途と、最後の懇談事項のところ東部地域の課題および振興に関することと書いている。課題と地域振興については未来永劫続くわけで、これを5年間で区切った市の考え方についてお答えできるのであれば答えていただきたい。</p>
<p>地域振興課 (佐藤課長)</p>	<p>5年間ということで、5年経過すると合併から20年となる。そうすると一定程度一体化の醸成も図られてくるのかと想定される。ただ会長の言われるように、5年で課題などが全てなくなるものではないということはわかるので、その後の地域の意見聴取は必要なのかと思う。どのような方法がいいかは別としても5年経過後も皆様の意見は何っていく場を設けていくことが必要であると思っている。詳細については、現時点で検討しているわけではないのでお示しはできないが必要だとは思っている。</p>
<p>松浦支所長</p>	<p>イメージということで、東部地域まちづくり懇談会について、課長から説明があったが、共通のテーマとは具体的に何かとなれば、なかなかイメージしづらいが、例えば先ほどお話した戸井から恵山、楯法華、南茅部を通った広域観光ルートだとか同じような観光資源を持っている中で、どうすればこちらに人を呼べるのかということテーマに意見をもらったり、そこに観光部であるとか、企画部であるとか、市の部局も入った中で議論していきたいと考えている。ただ年2回程度でどれだけ議論が深まるのかということもあると思うが、その辺を模索しながらつくっていくのかなと、これは4支所と企画部の共通認識である。一方で地域の課題について、例えば縄文でどうこの地域を盛り上げていくのか、これは地域で縄文に携わっている方々に何人か出てもらって南茅部地域の課題として、別に支所として考えていかなければならない。大きく分けて2つ。そんなイメージを持っている。何か皆さんからこうした方がという御意見があれば、ぜひお聞かせ願いたい。</p>
<p>熊谷会長</p>	<p>基本的には4地域1つで、しかし地域に固定してかかわるものについては各支所ごとに検討の余地がある、皆さんに集まって議論していただくという考え方もあるということである。なかなか4地域1つのテーマは難しいと思うが、集まらないよりは集まって議論した方がいい。それにしても、私としては今までの地域審議会を縮小した形でもできれば残してほしかったという思いは無きにしもあらず。ただ4地域あることで4地域の皆さんが1か所でいいということであればこれも頭から反対するものでもないし、その場で議論する余地もあると思うので、そういうふうに捉えていただければなと思う。くどいようであるが地域に関することについては、また皆さんに声がか</p>

	<p>かるかもわからないので、その時は、またよろしくお願ひしたい。 よろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
熊谷会長	<p>その他のその他はないか。</p>
地域振興課 (佐藤課長)	<p>次回の地域審議会は11月の開催を予定している。また時期になれば御案内と日程調整したいのでよろしくお願ひする。</p>
熊谷会長	<p>本日、机上に配付している資料があるが、縄文文化交流センターまでのシャトルバスを運行するということなので地域外の人たちにPRしていただければと思う。</p>
教育委員会 (蛭子井課長)	<p>よろしくお願ひする。</p>
地域振興課 (佐藤課長)	<p>令和元年度第1回函館市南茅部地域審議会を終了する。</p>
	<p>(午後5時50分閉会)</p>